

肥大化を続けるファイルサーバの悩みをワンストップで解決!

日立の「ファイルサーバ運用管理ソリューション」

多くの企業で、ファイルサーバの容量不足やバックアップの長時間化などが大きな課題となっています。そこで日立はミドルウェアとストレージの両面から幅広い課題をワンストップで解決する「ファイルサーバ運用管理ソリューション」を提供しています。このソリューションが持つ強みと導入効果について、株式会社日立ソリューションズ(以下、日立ソリューションズ)の盛井 恒男と株式会社日立製作所(以下、日立)の前田 宏幸に話を聞きました。

膨らみ続けるデータを
ムリなくスリム化

メールや画像、映像といったコンテンツデータの増加により、企業のファイルサーバは慢性的な容量不足に陥っています。容量の増加とともにバックアップ作業の負担も重くなり、情報漏えいやセキュリティ、災害対策などでも管理者の悩みは尽きません。

こうした課題に対し、日立グループで一体となって提供しているのが「ファイルサーバ運用管理ソリューション」です。日立ソリューションズが持つ実績豊富なミドルウェアと、日立のファイルストレージを組み合わせることにより、ファイルサーバに関する幅広い課題をワンストップに解決できるのが大きな特長です。

「ファイルサーバの運用で最も多い悩みが容量不足です。日立ソリューションズの調査によれば、企業の各部門で常時3割程度の不要ファイルが蓄積されていることがわかりました。長期間、更

新やアクセスのないファイル、不要となった作業用フォルダやインストールファイル—これらを消去あるいは安価なディスクやクラウド上に移動することで、コストと運用負担が削減できます。そこでお勧めしたいのが『活文 File Server Optimizer』です。このミドルウェアはファイルサーバの利用状況を“見える化”し、ユーザーに不要ファイルの内容を詳細にレポートすることで削除を促し、ムリなく“スリム化”を実現します。またスリム化だけではなく、必要なファイルを容易に検索することもできるため、日々のファイルサーバ活用の“活性化”も実現できます」と盛井は語ります。

乱立するファイルサーバの
統合管理とクラウド活用

拠点/部門ごとに分散しているファイルサーバの運用管理も企業の負担を増加させています。その解決策となるのが、大量のコンテンツデータを集約・統合管理できるファイルストレージ「Hitachi Virtual File Platform」(以下、VFP)です。

「VFPを活用したクラウドストレージソリューション『Cloud on-Ramp』は、各拠点/部門に配置したVFPからファイルデータをデータセンター内のバックアップ/アーカイブストレージ『Hitachi Content Platform』へ自動的に集約して、一元的な管理を実現します。利用頻度の高いファイルだけをユーザー側に置

くためディスク容量が最小化できますし、すべてのファイルはクラウドで強固に守られているためBCP※1対策にも役立ちます。何より拠点/部門ごとの容量監視やバックアップ負担がなくなる効果が高く評価されています」と前田は語ります。

同じクラウド活用でも「活文 Hybrid Storage Manager」は、利用頻度の低いファイルを安価なAmazon S3クラウドストレージに一時退避できるソリューションです。これにより、重要なファイルはCloud on-Rampで厳重にバックアップ管理し、利用頻度の低いファイルはAmazon S3に移動してCloud on-Rampのバックアップ管理から外すことで、ストレージ運用のコスト効率をさらに高めることが可能となります。

「活文 File Server OptimizerにはVFPとのログ連携機能があります。これを使えばVFPのログからアクセスのあったファイルだけを対象にクローリングできるため高速化が図れ、大規模なファイルサーバでも迅速な見える化を実現し、常に最適なスリム化運用を行うことができます」と盛井は言います。

※1 Business Continuity Plan

セキュリティ強化と
運用管理の効率化を実現

マイナンバー制度の導入で個人情報の漏えい対策が今まで以上に重要な課題となっています。そこでファイルサーバのセキュリティ対策として、新たに「活文



株式会社日立ソリューションズ
クロスインダストリ
ソリューション事業部
コンテンツソリューション本部
第5部 部長
盛井 恒男

File Server Optimizer セキュリティオプション」を提供開始しました。

「アンチウイルスソフトでは駆除できないマルウェア対策などに有効なのが『活文 File Server Optimizer セキュリティオプション』です。これはお客さまがファイルサーバ内の機密文書を決められた物理フォルダに格納する運用を徹底することで、このフォルダ下のファイルをすべて自動的に暗号化して、指定フォルダに集約する製品です。あらかじめ設定したキーワードをファイル名に含むファイルを自動検出して、これを暗号化することも可能ですので、規定物理フォルダへの格納漏れもカバーします。万一マルウェアの被害に遭っても、持ち出されるのは実体のないリンクファイルや暗号化されたファイルになるため、被害を最小化できます。暗号ファイルはユーザーが参照する場合だけ自動的に復号される

ため、業務運用を損なう心配もありません」と盛井は説明します。

セキュリティ対策のログ管理として用意されているのが「ALog ConVerter for Virtual File Platform」※2です。この製品はVFPのファイルアクセスログをエージェントレスで収集し、監査ログとして変換・検索・分析をトータルに実現、「誰が」「いつ」「どのファイルに」「何をしたか」を一目瞭然にし、監査業務の効率向上が図れます。

また、同じくログを有効活用するソリューションとしてお勧めしたいのが「Splunk」※2です。ファイルサーバのアクセスログを統計的に分析しダッシュボードでわかりやすくすることで、さまざまなリスクを予見し、インシデント発生前にアクションを促すことができます。

さらにファイルサーバの管理者にとって負担が大きいアクセス権管理についても



株式会社日立製作所
ITプラットフォーム事業本部
プロダクトビジネス推進部
GL主任技師
前田 宏幸

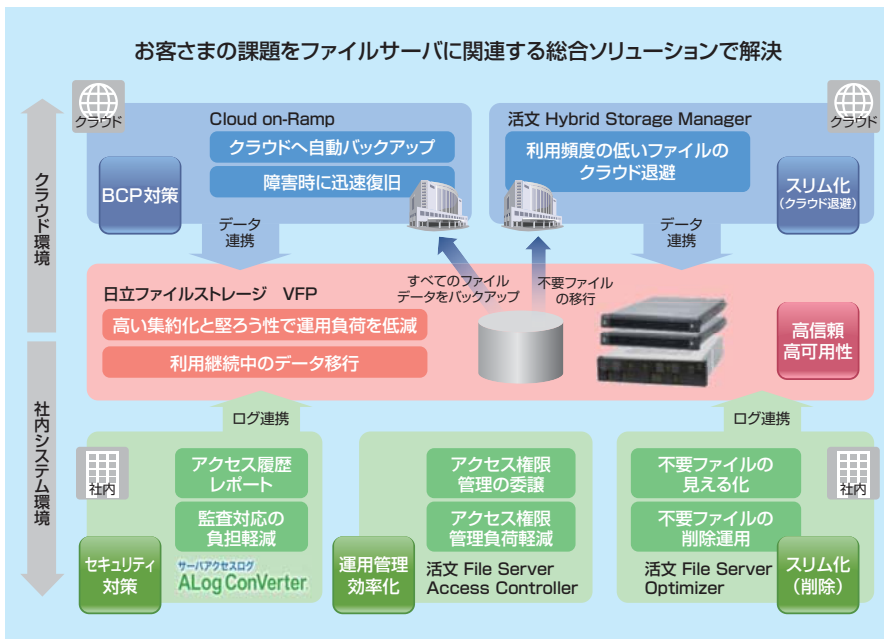
「活文 File Server Access Controller」が解決。わかりやすいインタフェースで Active Directory やファイルサーバへの設定・変更が行えるため、専門知識のない現場部門の運用者でもアクセス権管理が円滑となり、申請の手間や処理待ちが低減できます。

※2 ALog ConVerterは株式会社網屋、Splunkは米国 Splunk, Inc.が開発したソフトウェアパッケージで、株式会社日立ソリューションズが代理店販売します

ビジネスを止めない クラウドストレージ

クラウドストレージの導入を検討するとき、多くのシステム管理者が重要視するのが「管理負担が軽減できること」「低コスト」「移行が簡単なこと」の3点です。Cloud on-Rampでは、独自の特長でこれらの課題を解決します。ファイルサーバの基盤には、ぜひ日立のストレージをお選びいただきたいですね」と前田は言います。

日立グループの強みを生かし、安定した事業運営とデータ利活用をサポートする「ファイルサーバ運用管理ソリューション」。まずはお客さまの課題をお聞かせください。ご満足いただける解決策をワンストップで提供いたします。



「ファイルサーバ運用管理ソリューション」の概要

お問い合わせ先

HCA センタ

0120-2580-12

利用時間 9:00 ~ 12:00, 13:00 ~ 17:00 (土・日・祝日を除く)

情報提供サイト

http://www.hitachi.co.jp/storage/solution/file_server/